

収録・解説 酒井董美

語り手 松原あきさん  
(大正12年生まれ)

平成7年4月4日収録

## あらすじ

昔、唐の国の人々が「大きな唐山という山を日本人に見せてやろう」と海を渡って唐山を持ってきました。今のところへ置き、振り返って見たら霊峰大山がありましたから、その姿を見てびっくりして「まあ、こりゃ日本にも大きな山があるんだなあ」と言って、唐山を持って帰ることを忘れて、ここへ置いて帰ったそうです。

それが今の唐山で、この名前がついたそうです。

普段眺める山に親しみ

## 解説

### 大山と唐山の背比べ

(米子市今在家)



イラスト・福本隆男

### 昔人は山の高さ比べが好き

を感じて、人びとはほほ笑ましい伝説を作り上げた模様である。

高さを競って、どちらが高いかと高さ比べをし、

結論はわが里の山に分配を挙げたのである。このような話は、全国各地にたくさん残されている。昔の人々はよほどこの種類の話が好きだった模様である。

鳥取県内でもこの話はいろいろなある。他では大

山と丸山流れた方が負けというこ

などあるが、いずれも一つは大山が主役になって、怒った大山がただちに長い鉄の柄杓子を伸ばして鷲峰の頭をすくいとり自分の頭にくっつけた。それで今のように鷲峰が低くなった。

梗概を今一つ述べる。大山と三徳山ができたとき、三徳山の方が高く、

三徳山はなおも追いかけてくるので、つかまっ山に向かうのか、多くの山々が注目していると、水はゆっくりと西の方に流れて行く。きかん気の大山はあわてて、ちようど博労座の牛馬市の終わ

つた跡にうずたかく積みあげられていた牛馬の古わらじを頂上に継ぎました。しかしそれだけでは不

(元鳥取短期大学教授) (水曜日に掲載)